



ともしび



今年もまもなくお盆の時期がやってまいります。私の故郷では多くの家庭で縁側に提灯ちようちんを飾り、仏壇にキュウリの馬と、ナスの牛をはじめ、オクラを添えた素麺や、ナスの田楽など、夏野菜を使った料理をお供えています。僧侶にとってこの時期は特に忙しく、慌ただしいのですが、私自身は、そんなお盆についても胸がワクワクしています。なぜなら、お盆参りで一軒ずつお宅を訪問すると、お檀家さんたちがニコニコしながらお出迎えをしてくるからです。いつも、その笑顔に励まされ、「よし、まだまだ頑張ろう！」と活力をいただいています。

今はお盆とお正月にしか故郷に戻れない私を、いつも温かく迎え入れてくださるお檀家さん。私にとって、とても大切な存在です。

〈むらかみ 光龍〉

ともしび法話



【演題】

笑顔と感謝は

自分から



誰かに何かをしてあげたとき、一言のお礼の言葉も貰えず腹を立てたことはありませんか？

先日、知人がこんなことを言っていました。「スーパーやコンビニで買い物をして、レジでお金を渡し商品をもろうとき『ありがとう。』って言っているんだ。以前はそうではなく、逆にお店の人に『ありがとうございしました。』と言われないと気が済まなかった。お金を出して買ってあげたのだから、お店の人はお礼を言うべきだ、と考えていた。」しかし、彼はあるとき気が付いたと言います。「感謝すべきは、自分の方だ。」

この話には、心地よい気持ちで毎日を送るためのヒントが隠されています。そのヒントとは、感謝の心を持つことです。「ありがとう」という言葉は、「有り難し」という言葉が元になって出来たものです。例えば、一杯のお茶をいれてもらったとき、それが貴重で得難いものを得ているのだと気が付くことが出来たなら、感謝の念が起こり、同時に嬉しい気持ちもいっそう湧いてくるはずです。この知人は「有り難さ」によく気が付くことが

出来たのです。その結果、笑顔で「ありがとう。」と言えたのであり、その時、彼の心の中は心地よい感情で満たされていたことでしょう。

「お金を出して買ってあげた自分は感謝されて当然だ」とか「感謝されたい」という、傲りおごやわがまま心のことを仏教では煩惱ぼんのうと言います。これらの煩惱は、初めは小さくても放っておくと、自分の心は落ち着かなくなり、他人を攻撃するほどに大きくなってしまふこともあるのです。そうならないためには、自分がどれだけ得難いものを得ることが出来るかを考えてみるのが大切です。

これは買い物をした時だけのことではなく、家庭でも職場でも同じことが言えます。私たちが生活するうえで人との関わりを断つことはできません。その中で、最も得難くそして貴重なものとは、信頼と安心ではないでしょうか。あなたが一杯のお茶をいれてもらったときに得ているものとは、お茶だけではなく、あなたのことを思う心そのものです。それ

は傲りやわがまま心のない、煩惱を離れた心なのです。その心に接した時、あなたは安心することができ、相手に対しての信頼を感謝という形で表すことが出来るのです。冒頭の知人も、欲しいものが手に入つたということだけに感謝しているのではないのだと私は考えます。確かにその時に必要とする商品を買って来たからこそ買うことが出来たというのは間違いありません。しかしそれだけではなく、無事に買い物が出来、お店や店員さんとの間に一定の安心と信頼を感じたところから感謝の心が生まれてきたのです。

私たちが毎日を心地よく過ごすためには、感謝の気持ちと笑顔で相手と接することが大切です。そうすることで、より深い安心と信頼に裏打ちされた関係を築くことが出来るのです。笑顔と感謝は自分から。私も出逢った多くの人との間に心地よい安心と信頼を築くことが出来るように誰に対しても、感謝の心を忘れずに、自分から笑顔で「ありがとう。」と言えるよう心掛けていきます。

私の ふるさと



第二十一回 長生炭坑とピーヤちようせいたんこう



ピーヤ（海底炭坑の通気口）

私の故郷、山口県宇部市は瀬戸内海に面しております。幼い頃から、天気の良い日には、よく近所の海岸へ魚釣りに出かけたものでした。平凡な港町の風景の中で、子供心に奇妙に思われたのは、海に煙突が二本立っていることでした。

昔、宇部は海の底の石炭を採掘する、海底炭坑の町として栄えたそうです。子供の頃に釣りをしながら眺めていた、あの海の煙突の正体は「ピーヤ」と呼ばれる、海底炭坑の通気口でした。

当時、海底炭坑では事故が多く、宇部にある「長生炭坑」では、坑道が水没する大きな事故を起こし、閉坑を余儀なくされました。今からおよそ七十年前に作業していた多くの方たちは、今もなお海底に眠っておられます。

瀬戸内の海面から顔を出したこの二本のピーヤは、在りし日の悲しい歴史の記憶を、今日も静かに私たちに語っているのです。

〈佐田 陸道〉

〒105-8544 東京都 港区 芝 2-5-2 曹洞宗宗務庁内
曹洞宗総合研究センター 教化研修部門 一般教化課程
ともしび法話会

TEL 03-3454-6844 FAX 03-3454-7180

2014(平成26)年 7月1日発行 第386号